

# 平成 27 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指導	題名	ぶどう短梢栽培用平棚における「エーデルロツツ」の仕立法	
[要約] 既存の短梢栽培用平棚を利用して「エーデルロツツ」を栽培する場合は中～長梢せん定が適する。				
キーワード	エーデルロツツ	短梢栽培用平棚	仕立法	技術部 果樹研究室

## 1 背景とねらい

本県では、生食用ぶどうの約 50%以上は「キャンベルアーリー」（以下「キャンベル」という。）が栽培されている。「キャンベル」は耐寒性が強く、短梢せん定（結果母枝を 2 芽残す短梢）が可能で栽培が容易であるが、老齢樹が多く、食味は近年の消費者嗜好に合わなくなっている。

本県育成のぶどう品種「エーデルロツツ」は 9 月中下旬に成熟する赤色品種で、耐寒性が優れ食味が良好であることから、平成 22 年に県の奨励品種とした。

本研究では、「キャンベル」の改植時に「エーデルロツツ」を導入することを想定し、「キャンベル」で一般的な短梢栽培用平棚（以下「短梢棚」という。）における「エーデルロツツ」の仕立方法を検討する。

## 2 成果の内容

- (1) 「エーデルロツツ」の結果母枝の第 1 及び第 2 節位の発芽・花穂着生率は年次により低く（表 1、2）、また第 1 及び第 2 節位より発生する花穂を整形した場合、花穂整形後に目標とする花穂長 9 cm を下回る可能性があるため（表 3）、本品種に短梢せん定は適さない。
- (2) 「エーデルロツツ」は、短梢棚を利用して中～長梢せん定（図 1、結果母枝を 3～13 芽残してせん定し主枝に結束）を行うことにより、長梢栽培用平棚を利用した場合と同等の収量及び果実品質を得ることが可能となることから（表 4）、本品種を短梢棚で栽培する場合は中～長梢せん定とする。
- (3) 「エーデルロツツ」を短梢棚で栽培することによる新梢の登熟不良は見られない（表 5）。

## 3 成果活用上の留意事項

- (1) 本試験では、短梢棚において H 型整枝とし、新梢本数は中～長梢・短梢せん定とも 15 本/3.3m<sup>2</sup>とした。
- (2) 中～長梢せん定では、樹の水上げ開始後に結果母枝を主枝の基部方向に戻して結束する（図 1）。なお、果房の着生位置は主枝から 30cm 程度離れるため、短梢棚の支線はそれ以上とする。
- (3) 中～長梢せん定では、結果母枝の基部に近い芽は結果母枝を更新するために養成する。
- (4) 花穂整形方法及び着果量調整は、平成 25 年度試験研究成果「ぶどう品種「エーデルロツツ」の花穂整形方法と適正着果量」により行う。

## 4 成果の活用方法等

### (1) 適用地帯又は対象者等

ア 適用地帯： 県内ぶどう生産地域

イ 対象者等： 果樹栽培指導者

### (2) 期待する活用効果

ア 「エーデルロツツ」の生産振興が図られる。

イ ぶどう産地の活性化につながる。

## 5 当該事項に係る試験研究課題

- (H23-04) ぶどうオリジナル品種の安定生産技術の確立  
 (2000 短梢栽培用平棚を利用した栽培方法の確立

## 6 研究担当者 大野 浩、佐々木 真人

## 7 参考資料・文献

- (1) 平成 21 年度岩手県農業研究センター試験研究成果「品種 ぶどう 耐寒性が強く食味良好な赤色品種「岩手 3 号」」
- (2) 平成 25 年度岩手県農業研究センター試験研究成果「ぶどう品種「エーデルロツツ」の花穂整形方法と適正着果量」
- (3) 平成 24～27 年度 岩手県農業研究センター技術部果樹研究室試験成績書（一部未定稿）

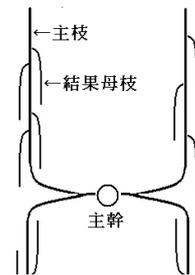


図 1 短梢栽培用平棚における中～長梢せん定

## 8 試験成績の概要（具体的なデータ）

表1 短梢せん定における節位別発芽・花穂着生率（%）

節位	2013年		2014年		2015年	
	発芽率	花穂着生率	発芽率	花穂着生率	発芽率	花穂着生率
第1節位	98.6	61.9	90.0	69.4	65.0	42.5
第2節位	95.2	72.0	95.0	76.3	92.5	82.5
結果母枝毎	99.3	84.5	100	80.0	95.0	92.5

※短梢棚の2006年植栽樹を供試。1区2主枝2反復。

表2 中～長梢せん定における節位別発芽・花穂着生率（%、2015年）

節位	発芽率	花穂着生率
第1節位	45.0	25.0
第2節位	95.0	75.0
第3節位	100	100
第4節位	94.4	94.4
第5節位	100	100
結果母枝毎	100	100

※短梢棚の2006年植栽樹を供試。1区1主枝2反復。

表3 長梢せん定における節位別花穂長（2012年～2013年の平均値）

節位	花穂長（cm）
第1節位	8.8
第2節位	9.5
第3節位	11.7
第4節位	13.2
第5節位	13.5
第6節位	14.6
第7節位	14.4

※開花始期の副穂から花穂先端までの長さ。

※平成25年度試験研究成果（参考資料・文献(2)より転載。

表4 果実品質および収量（2012年～2015年の平均値）

区名	房重 (g)	粒重 (g)	糖度 (Brix%)	酸度 (g/100ml)	収量/10a (kg)
短梢せん定	258	10.0	19.4	0.50	1094
中～長梢せん定	272	9.8	19.3	0.49	1122
(参考)長梢せん定	256	9.7	20.1	0.43	1144

※短梢せん定及び中～長梢せん定区は短梢棚の2006年植栽樹、長梢せん定区は長梢棚の2002年植栽樹を供試。

※長梢せん定区の果実品質は2012～2013年及び2015年、収量は2013年及び2015年の平均値。

※供試果実数 1区10房。

表5 樹体生育

区名	2014年			2015年		
	新梢長 (cm)	節数 (節)	登熟率 (%)	新梢長 (cm)	節数 (節)	登熟率 (%)
短梢せん定	139.0	19.1	75.3	128.2	17.3	79.9
中～長梢せん定	89.9	13.4	66.2	145.2	18.8	86.0
(参考)長梢せん定	128.6	19.0	64.5	142.6	24.9	83.5

※供試樹の条件は表4に同じ。1区10新梢2反復。